

『ひろしまラウンドテーブル 2022』 を開催します

記者会見日時：7月13日(水)15:00～

記者会見会場：リーガロイヤルホテル広島 3階 音戸

『ひろしまラウンドテーブル』は、日本、米国、中国、韓国、豪州等の外務大臣経験者や世界の第一線で活躍する研究者等による、東アジアの核軍縮・軍備管理に焦点を当てた多国間協議の場として、平成25(2013)年度に1回目を開催し、今年度で9回目となります。

今年の会議は、『核兵器を乗り越えた世界を構想する』と題し、ロシアによるウクライナ侵略とその過程で行われた核威嚇が核軍縮・核不拡散に与える影響について焦点をあて、核兵器使用のリスクがかつてないほどに高まっている現在において、再び核軍縮・核不拡散を前進させるために私たちは何をしなければならないのか等について議論します。

会議の成果として発表する議長声明は、今年8月1日からニューヨークで開催される核兵器不拡散条約(NPT)運用検討会議に先立ち、被爆地広島からの呼びかけとして、同条約の全締約国(191か国)に送付します。

<ひろしまラウンドテーブル 2022 の概要>

日程：令和4年7月12日(火)・13日(水)の2日間

場所：リーガロイヤルホテル広島(広島市中区基町6-78)

(会場での対面参加とオンライン参加のハイブリッド方式)

主催：広島県・へいわ創造機構ひろしま(HOPE)

会議テーマ：核兵器を乗り越えた世界を構想する

セッションテーマ：別紙1のとおり

参加者：国内外の専門家20名 ※詳細は別紙2のとおり

※参加者間の活発な議論を促すため、会議は非公開とする。

<記者会見(議長声明発表)>

日時：令和4年7月13日(水)15:00～15:30

記者会見場所：リーガロイヤルホテル広島 3階 音戸(広島市中区基町6-78)

実施方法：会場およびZoomのハイブリッド方式

出席者：湯崎知事、藤原議長(東京大学客員教授)他4名 ※詳細は別紙2のとおり

言語：日本語・英語(日英同時通訳有)

取材申込：①会場での直接取材を希望される場合：事前申込み不要

②オンラインによる取材を希望される場合：以下より事前申込み

https://us06web.zoom.us/webinar/register/WN_ZK28TPwrRDua7XAFTVKnLg



ひろしまラウンドテーブル 2022 セッションテーマ

セッション1：ロシアによるウクライナ侵略が核兵器に与える影響

Session 1 Russian war on Ukraine and its impact on nuclear weapons

2月24日に始まったロシアによるウクライナ侵略は武力行使による国境線の変更を目指す行動としてそれ自体が国連憲章に違反する行動であるが、それに加え、プーチン大統領が繰り返し核兵器の使用について言及している。このような核による威嚇はこれまでに国際社会が積み重ねてきた核軍縮・核不拡散の取組に逆行するものである。この侵略が核軍縮交渉と核不拡散体制に与えた影響を考えなければならない。

さらに、核兵器に依存する抑止戦略は避けられない選択なのか、改めて考える必要がある。ロシアによるウクライナ侵略を、核大国が非核兵器国へ核威嚇を行いながら侵略行為を行うという安定 - 不安定逆説の派生形として見るができるが、そのような侵略を前にしたアメリカを中心とする同盟諸国は通常兵器による抑止に加えて核抑止力の強化を模索している。それは合理的な選択なのか、核抑止の限界について改めて検討する必要がある。

さらには、200年以上に渡って中立政策をとってきたスウェーデンやフィンランドが北大西洋条約機構(NATO)への加盟を決定したが、両国の核軍縮・不拡散への役割の後退を招かないようにするためには何ができるのかも考えなければならない。

セッション2：核軍縮・不拡散のための選択

Session 2 Options for nuclear disarmament and non-proliferation

ウクライナ侵略は核軍縮・不拡散に関する協議の進展を阻もうとしている。そこから生じる問題として以下の3点があげられる。






第一に、新STARTの協議再開が見えないなかで、アメリカとロシアの核軍縮をこれからどう進めることができるのか。第二に、核兵器禁止条約締約国と条約に加わらなかった諸国との間に開いたギャップをどうすれば小さくすることができるのか。核兵器国の条約批准から10年以内の核兵器廃絶を定めたTPNW第1回締約国会議におけるウィーン行動宣言についてどのように評価できるのか。第三に、核不拡散体制をどうすれば再建できるのか。開催が決まったNPT運用検討会議のアジェンダはどのように設定することができるだろうか。既存の2国間の軍縮枠組みと多国間の軍縮枠組みの双方において核軍縮・不拡散の議論をこれからどのように進めることができるのかを考えなければならない。

また、東アジア地域について考えるとき、中国と西側同盟との緊張が高まり、北朝鮮もミサイル発射実験を繰り返すなかにおいて、対中抑止力の強化と核抑止力の強化や核共有との結びつきが避けられないものなのか、核への依存を高めないためにも検討しなければならない。

ひろしまラウンドテーブル2022出席者リスト

対面 オンライン 記者会見

					対面	オンライン	記者会見
1		日本	阿部 信泰	元国連事務次長（軍縮問題担当）		○	
2		日本	秋山 信将	一橋大学大学院法学研究科 教授		○	
3		日本	藤原 帰一	東京大学未来ビジョン研究センター 客員教授	○		○
4		日本	石井 良実	外務省軍備管理軍縮課 課長		○	
5		日本	栗崎 周平	早稲田大学政治経済学術院 准教授	○		○
6		日本	水本 和実	元広島市立大学広島平和研究所 教授	○		○
7		日本	向 和歌奈	亜細亜大学国際関係学部 准教授		○	
8		日本	戸崎 洋史	公益財団法人日本国際問題研究所軍縮・科学技術センター 所長		○	
9		日本	湯崎 英彦	広島県知事 へいわ創造機構ひろしま（HOPe）代表	○		○
10		豪州	ギャレス・エバンス	オーストラリア国立大学 特別荣誉教授 元オーストラリア外務大臣	○		○
11		豪州	ラメシュ・タクール	オーストラリア国立大学 名誉教授		○	
12		中国	沈 丁立	復旦大学 教授		○	
13		中国	趙 通	清華カーネギーグローバル政策センター シニアフェロー		○	
14		韓国	田 奉根	韓国国立外交院外交安保研究所 教授		○	
15		韓国	金 永峻	韓国国防大学校安全保障大学院 教授 韓国大統領府国家安全保障室政策諮問委員		○	

16		米国	ジョン・アイケンベリー	プリンストン大学 教授		○	
17		米国	ジェフリー・ルイス	ミドルベリー国際大学モントレール校 ジェームズ・マーティン不拡散研究センター 東アジア不拡散プログラム ディレクター		○	
18		米国	リン・ラスティン	核脅威イニシアティブ (NTI) 副会長 (グローバル核政策プログラム)		○	
19		米国	スコット・セーガン	スタンフォード大学 教授	○		○
20		米国	アンドリュー・ウェーバー	戦略的危機評議会 シニアフェロー 元米国防次官補 (核・化学・生物防衛計画担当)		○	

国別, 氏名アルファベット順